

県内公立高の倍率
前年を上回る1.06倍

中学生進路希望

県教委は20日、来春卒業見込みの中学生に対する第1回進路希望調査（2月現在）の結果を発表した。県内公立高（全日制・フレックスクール）64校全体の倍率は前年同期を0.01倍上回る1.06倍で8年ぶりに増加した。定員割れは4校減の32校。

学校別の倍率は、高崎経済大付属が1.76倍と4年連続で最も高く、前橋商と高崎工とともに1.55倍、桐生1.48倍、高崎北と伊勢崎清明がともに1.43倍と続いた。

定員割れは下仁田0.11倍、嬬恋0.16倍、万場0.17倍などだった。

中学などの卒業見込み者は1万7104人（前年同期比41人減）